

憑き物の種類と由来

The origins and kinds of Spirit Possession

アラン・ シュー

Alan Hsu

82-372: Advanced Japanese II

1 はじめに

僕は高校の時友達と占いについて話している時、初めてコックリさんの話を耳にした。コックリさんと呼ぶ儀式自体はとても面白かったが、僕がもっと気になったのは儀式がもし途中中断したらコックリさんの霊は参加者に憑依することだった。その時僕はどうしてコックリさんは人に憑依するのかと質問したら、「コックリさんは自分に不敬な人を殺したい」とか「コックリさんは意地悪いから」など、様々な答えをいただいた。それから、時々コックリさんのように人に憑依する妖怪の話聞いたことがある。僕はこういう憑き物のことをもっと知りたくてこのプロジェクトを始めて、次のことが分かった。まず、日本の霊魂観で霊は不滅で、亡くなった人の魂はもし祀らないと荒魂になること。また、様々な神様が現世の物に宿っているが、人らしさを持つ意地悪い神様もいること。さらに、昔の日本の民間には憑き物を使って呪いたい人に憑依する信仰があること。精神病と感染症への不理解から生まれた憑き物の信仰もあるらしい。最後に、神道観が薄い台湾でも憑き物の概念がある、そして大抵は日本の概念ととても似ている。

2.1 荒魂説

日本の霊魂観は複雑な概念だが、その中心には「霊魂不滅」という重要な概念がある。人々の肉体はただ魂の容器で、人間の存在の本質は魂という考え方は日本の霊魂観の基本だそうた。神奈川大学の上原教授によると、死への不安と親しい人を失った苦しみを克服するために日本人は霊魂の存続を信じている。具体的には、人間の魂は神々の世界から人間界に来て生まれ、そして死後また神々の世界に帰って行くという循環がある。亡くなったばかりの人間の霊は、短い間に人間界と神の世界の中間にいる不安定な存在になる。その魂を神の世界へ送るため、また生きている人々が葬式を挙げて亡くなった人の魂を祭ることが必要。祭らなかつた魂は神の世界に行けないまま、荒魂として人間の時から残った欲望や怨念にかられて現世の物に憑依して行動する。その有名な例の一つは、旅人に憑依して空腹感を与える餓死した人の魂、「餓鬼憑き」という憑き物だ。憑き物の記載はこういう荒魂の種類が一番多いようだ。

2.2 神宿り説

神道の影響が深い日本には、神々は現世の全ての物にいるという考え方がある。神様は上位の存在だから、一般的には「憑依」と呼ばないで、代わりに「神宿り」や「神懸り」と呼ばれる。よく神様が宿る物の中では、自然の物と動物が一番多いらしい。神の地位によって宿っているところも違うようだ。上位の神様は山や川など大きい自然の物に宿る、そして下位の神様はよく犬や狐など小さい生き物に宿る。そのような神様の中に、時には人をいじめることを楽しんでいる下級の神様がいる。コックリさんはその有名な例の一つだ。コックリさんは、狐に宿って召喚する人の前に現れ質問を答えるの神様だ。そして、コックリさんの占いは、神様の力を貸す占いの一つで儀式が簡単だから若い人の間にとっても人気があるらしい。コックリさんの儀式を中断すると、コックリさんは人の体を奪って厄を与えるという噂がある。この行為は都市伝説として様々な解説があるから、何が正しいのか判断できない。しかし、その中に一つ面白い結論があった。それは、こういう現世にいる神様は人に近いから、人間から影響を及ぼして神様にもある程度、人らしさを持たせることだ。人の行為を見て学ぶ、または再現するのは神様が人らしさをもたせる方法のようだ。結果的には、こういう人に迷惑をかける神様を間違っただけ憑き物と呼ばれることは多い。つまり、こういう神様は定義的には憑き物じゃないが、憑き物のようなことをしているから憑き物と認識されたということだ。

2.3 呪い説

日本の民間には、妖怪を使い魔として人に憑依する呪い術が存在している。その中で一番大きいのは、犬神信仰だ。犬神信仰の発祥は定説がないが、恐らく昔の貧富差説がその中で一番説得力があるだろう。昔の日本では、金持ちな家族はよく犬を飼ったようだ。貧乏な人たちが犬が自分よりいい飯を食べている景色を見て、その犬はお金を奪う憑き物という噂が出始めたかもしれない。犬神についての記録によると、犬神は特定な対象に憑依して病気を与える力を持っている。そして、犬神は召喚した人が指名した人に必ず憑依するようだ。憑依した人は変なことしか話せなくて自分の意識も持っていない状況になる。犬神に憑依された人はお祓いをして浄化しないと、病気はさらに悪くなってそのまま死ぬ。対象が死んだら、犬神と召喚者の契約が完成し、犬神は神の世界に戻れる。この呪い方は、自分のライバルを殺すための呪いから、日本の民間はよく使っていたらしい。呪い方から生まれた憑き物は、大体は犬神のように不幸を与える物でほとんどは妖怪のようだ。

2.4 精神病と感染症への不理解説

憑き物の解析にもう一つ面白い理論がある、それは精神病と感染症への不理解説という仮説だ。医学がまだ精神病を病気として認めていない時に、社会には精神病の病人はただの変人だ。双極性障害の好発年齢は25歳から、いきなり別な人格を持つようになると、周りの人たちは心配して混乱になるだろう。病人の感情の不安定さは憑き物からの影響に判断されるのも仕方がないかもしれない。また、統合失調症の病人たちは自分と他人の違いが分別できないから、よく自分が何かに憑依しているの感じをするらしい。こういう精神病は、昔は科学的な説明がなかったから、憑き物のような超自然のものを考えるのは自然な説明方とは言えるだろう。一方、狂犬病と牛海綿状脳症など感染症も憑依の影響と認識しているらしい。動物からの感染症は特にそうだった。昨日までは普通だった人たちは動物と接触し、変な行動をするになるのは、動物の霊に憑依されるを認定されるのもおかしくないことだ。

3 台湾との比較

こういう様々な憑き物の可能な由来を調べる中で、僕はこの中に台湾にもある概念がたくさん見つかった。その一つの例は、餓鬼憑きだ。日本では、餓鬼憑きは餓死した人の荒魂で、旅者に憑依して食べ物を探すものだ。台湾にもこういう概念がある。台湾には旧暦の七月は「鬼の月」と呼ばれて、鬼が地獄から出て来ることを信じている。僕の祖母はその時必ず「餓死鬼」のために食べ物を家の外に置く。これは、餓死鬼たちはおいしいものを食べて仏になることができるための仏教儀式だ。また、台湾には動物が長生きしたら人に憑依する能力が身につくことが信じられている。そして、この動物たちは人に恩返しまたは復讐することができる。日本にはそういう考え方もあるらしい。安原先生から教えられた情報によると、日本には猫は長生きすると猫又になる言い伝えがある。

4 結論

憑き物は人に憑依するもので、四つ主要な由来の可能性がある。その四つの可能性は同様に大切だから、どちらでも言い切れない論説だ。この四つの論説の共通点は神道的な影響が深い、そしてほとんどは当時の人が理解できないことを説明するための概念だ。人は未知を恐れる、そして人は未知を既知に変えたい。そのために、どんな不論理的な説明でも受け取る人がいる。また、人はいいことの由来より悪いことの由来を知りたい。憑き物はこういう人の弱さを示すものだから、一般的には悪い存在だ。つまり、憑き物の由来は様々だが本質は不思議な現象を説明するための、人が考えた「理由」という結論が導けるだろう。

参考文献

《日本人の靈魂観》（2012）神奈川県外国語学部・教授 上原雅文 医学哲学と倫理 第9号

《妖怪事典》（2000）村上健司 毎日新聞社

《一霊四魂と和の精神 ～垣根を超えて大きな和の世界を創る古代の叡智》（2013）出口光 サムライタイムズ社

「荒魂、和魂、幸魂、奇魂とは？」（2012）ネット
<http://www.jisyameguri.com/zatsugaku/mitama/>

《水木しげるの憑物百怪》（2005）水木しげる 小学館

《宗教学辞典》（1973）小口偉一, 堀一郎監修 東京大学出版会

《妖怪玄談 狐狗狸の事》（1978）井上円了 仮説社

《日本の憑きもの 社会人類学的考察》（1978）吉田禎吾 中央公論新社

「犬神の発祥と体験談」（2015）ネット <http://www.coffeespark.com/犬神信仰と呪詛を恐れた長宗我部氏！国をも揺る>

「双極性障害（躁うつ病）」（2011）厚生労働省 ネット
http://www.mhlw.go.jp/kokoro/speciality/detail_bipolar.html

「統合失調症」（2011）厚生労働省 ネット
http://www.mhlw.go.jp/kokoro/speciality/detail_into.html